

令和3年度第1回(第36期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和3年6月29日(火)午後2時～午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第5委員会室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--|
| 委員 | 伊藤豪委員、晝馬るみ委員、河合亮子委員、
近藤潤子委員、高木一徳委員、中村朋子委員、
松本孝久委員、屋名池倫子委員、白岩伸也委員 |
| 事務局 | 中村文化振興担当部長、
久米生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、
遠部指導主事、井ノ口指導主事 |
| 欠席委員 | 鈴木一夫委員 |
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容
- 1 第36期浜松市社会教育委員会の活動
 - 2 本市の主要事業における実績及び計画
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
遠部佳代子、今井千晶
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 委員委嘱
- 3 委員長あいさつ
- 4 職員紹介
- 5 議事
 - (1) 第36期浜松市社会教育委員会の活動
 - (2) 本市の主要事業における実績及び計画
 - 事務局から、資料1に基づき令和2年度の活動実績及び令和3年度スケジュールについて説明
 - 事務局から、資料2に基づき本市の主要事業における実績及び計画について説明

(晝馬るみ委員)

コロナ禍で人が集まることができない中、活動を衰退させるのではなく、発展させる工夫がどの区もされていて非常に良かった。新型コロナウイルス感染拡大の影響がなければ、ICTはここまで活用されていなかったのではないか。インターネットを使っただけの講座の受付など、この1年でとても進んだと思う。そう考えると、経験したことのないような非常事態も悪いことだけではなかったと思うことができる。

各区でスマホ講座が開催されているが、高齢の方にはまだハードルが高い。苦手意識を持っている人たちにどのように情報を発信していくのが課題である。また、ICTの活用とともに、紙媒体での情報発信の仕方も残し、ICTと紙媒体を併用していくのがこれからの課題である。

(伊藤豪委員長)

その通りだと思う。年齢が高くなってくると、ICTへの対応が難しくなる。しばらくの間は、ICTと紙媒体の併用は必要である。

(近藤潤子委員)

各地区で特色を活かした講座が開催されている。託児付きの講座の開催は、子育て中で講座に参加しにくい母親たちにとって、とてもありがたい取り組みになっている。コロナ禍で、人とふれ合うことが減り、孤立する母親たちも多々いる。近くの子育て支援センターで、1時間半程度ずつ、母親同士がふれ合うことのできる時間を作る取り組みをしている。共感し合ったり、アドバイスし合ったりできる、人と人のつながりは大切。ぜひ今後も託児付き講座を積極的に開催してほしい。

コロナ禍においてもやはり人と人のつながりは大切である。併せて、口コミの情報はとても重要である。

(伊藤豪委員長)

参加率の低い、30代～50代の人達の参加者が増えた講座の報告があったので、他の施設でも参考にすると、他にも広がるのではないか。どのような内容だったか。

(事務局)

開催を土曜日にした。協働センターだよりだけでは、受講者が集まらなかったため、講師として来てくれる方が経営する喫茶店のホームページ・SNSに、講座の情報を載せてもらった。その結果、若い世代、定員を上回る受講者獲得につながった。若い世代への広報は、協働センターだよりよりも、写真などが載っているSNS等が効果的であると感じた。

(河合亮子委員)

令和2年度は中止が多かったが、センター祭りなど今年度はどの様に開催するか教えてほしい。

中区の浜松学院大学長期企業内留学生受け入れは、新しい形態だと思うが詳しいことを教えてほしい。

(事務局)

センター祭りについては、各協働センターから8月末までに情報を集め、一覧にしてホームページにも掲載する予定。

浜松学院大学長期企業内留学生受け入れについては、浜松学院大学の学生が協働センターに長期で来ている。職員研修会と一緒に参加している学生もいて、職員と同じように協働センターで、市民や地域の事業に関わる経験をしている。

(中村朋子委員)

「星のソムリエになりませんか」をはじめ、地域にある施設を活用して、講座

を開いているのがとても良いと思った。地元の住民と施設への愛着、つながりが作られている。そのつながりは地域の活性化や世代間交流の促進ができる可能性がある。

(伊藤豪委員長)

今年度から、新たに大学連携講座に浜松医科大学も加わったと聞いた。学生も忙しいと思うがどのような経緯か聞きたい。

(事務局)

昨年浜松医科大学の医師のご家族が、親子で大学連携講座に参加してくれた。その際に、浜松医科大学でご指導されているサークル活動と共通する部分があり、協力できるのではないかとということで、その医師に話をしてくれた。それをきっかけに事務局へと話がつながり、今年度の連携が実現した。

(屋名池倫子委員)

二次元コードやメールでの申し込みに力を入れるということであるが、昨年実施していて参考にできる協働センターはあるか。

(事務局)

北部、県居、東部、佐鳴台協働センター等が、先進的に新しいフォームを使って取り組んでいる。

(屋名池倫子委員)

雄踏協働センターの男性の講座に、あまり人が集まらなかったのは残念。男性が男性を呼び、若い世代がまた若い世代を呼んでくれるはずである。女性ばかりの講座に入りにくいと思うので、上手く男性がたくさん参加してくれるような講座が実現できると良い。

(松本孝久委員)

コロナ禍を理由にすると、「できません」「やりません」という選択もあるが、そうではなく「工夫してやる」という選択をした結果、ここまでの事業が展開されたことがすばらしい。やらないという選択は楽であるが、やるという選択には大変な苦労とともに、相当な努力が必要になり、リスクを背負うことになる。その状況下でがんばっている生涯学習施設職員の皆様のことを、もっと多くの方に知ってもらいたい。

学校現場では、学校現場において、男性とか女性という区別はしていない。「男の・・・」と限定する講座の一方で、女性が男性を連れてこられるような講座もいかもしれない。性別問わず楽しそうな講座の様子の写真等を載せると良いのではないか。SNS等において写真を掲載することは、若い世代の集客には有効である。情報発信の仕方や募集の仕方を工夫することが必要である。

高齢者に向けては、スマホを使ってのコロナワクチン接種の疑似申し込み講座なども良いと思う。

(白岩伸也委員)

コロナによるオンラインの普及は学校教育以上に社会教育に影響を与えていると思った。天竜区の主な取り組みの中に「地域への愛着」とあるが、オンラインが進む中、地域への愛着を子供たちにどのように育んでいくのかは課題である。時代に適した地域への愛着心を考えなければいけないと思った。

浜松市に来て2年目で、まだ浜松のことを知らない。私のような浜松に移り住んできた人達の地域への愛着心を、どのように育んでいくのかも課題である。

(高木一徳委員)

若い世代の柔軟な感覚はすごいと感じる。日常生活にもどんどんITを取り入れている。そんな若い世代をどんどん地域で活用していければ良いと感じる。

(伊藤豪委員長)

白岩先生から地域への愛着とあったが、コミュニティ・スクールが推進され、自分は地域の人たちの話を聞く機会ができた。豊西地区に住んでいるが、豊西という地名の由来を誰も知らなかった。豊西小学校にも長い歴史の背景があることを、自分が話をして、子供達は初めて知った。学校に地域の人や、大学生が入って新しい風を入れることで、子供たちの地域への愛着・興味が育つと感じた。

(晝馬るみ委員)

いつでもどこでも誰でも、世代を超えて学び合えるのが、協働センターの役割である。そして協働センターが、世代間交流を推進できるベストな場所である。今は世代を限定された講座が多いと思うので、親子対象の講座だけではなく、高齢者と子供等を対象とした講座の成功事例を聞きたい。

(事務局)

実際親子での参加が多い。料理教室は、ターゲットを絞っていないものも多く、若い人と高齢者の方が一緒に講座を受けている。今後、料理教室に限らず世代間交流を図れる講座を広めていきたい。

(晝馬るみ委員)

私が住んでいる内野台は、3世帯で住んでいることが稀。おじいちゃんおばあちゃんと過ごしたことがない子供たちが多く、ぜひ世代間交流を積極的に図ることができる講座等を企画してほしい。

(伊藤豪委員長)

コロナがあったからこそ、創意工夫が生まれる。困難があると新しいアイデアが生まれる。浜松市の社会教育の中でも、多くの創意工をされていることが感動的だった。

■事務局よりコミュニティ・スクール、生涯学習講師登録名簿、令和3年度生涯学習人財育成事業について説明

(高木一徳委員)

浜松市のホームページに、講師名簿は載らないのか。

(事務局)

個人情報も含まれるため載せられない。地域の窓口である協働センター職員からの紹介を通じて、活用してほしいと考えている。

(伊藤豪委員長)

プライバシーを保護しすぎて、親同士の連携が取れなくなり子供達が遊ばなくなった。プライバシーの保護が悪い方向へ行っているように思う。しかしながら、コミュニティ・スクールが本格的に始まり、学校運営協議会で校長や教育委員会に意見が述べられるようになったことから、親同士の連携を含め、提言していければいいと思う。

(屋名池倫子委員)

友人から、世界60か国を回った体験を子供たちに伝えたいと相談されたが、直接学校に行ったほうが早いと話した。まだまだこの生涯学習講師登録制度は浸透していないと思う。もっと多くの人に知ってもらえれば、さらに人財の掘り起こしや活用ができると思う。人財育成事業の講座は、講師登録すれば案内が届くのか。

(事務局)

生涯学習ボランティア養成講座は、ホームページで公開されている。生涯学習講師養成講座は講師登録者と講師登録希望者に案内する。生涯学習講師登録希望用紙を提出すると、案内も届くようになる。

6 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・浜松市と大学との連携事業【連絡資料】
- ・次回開催予定

令和3年10月7日(木)

<会場>サーラ音楽ホール

7 閉会